

目 標	・具体物を用いた活動などを通して数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え用いることができるようにする。 ・具体物を用いた活動などを通して、量と測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。 ・具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする。		
学期	学習内容・到達目標	学期	学習内容・到達目標
前 期	なかまづくりとかず ・2つの集合の多少について、1対1対応の考え方をを用い、工夫して比べることができる。 なんぼんめ ・方向や位置に関する言葉と数を用いて、物の位置をわかりやすく簡潔に表す方法を考えることができる。 いくつと いくつ ・5～10の数の構成を理解することができる。 あわせて いくつ ふえると いくつ ・和が10以下の加法の計算が正確にできる。 ・文や絵から加法の場面について考え、わかりやすく説明することができる。 のこりは いくつ ちがいは いくつ ・10以下の数について、減法の計算が速く正確にできる。 ・数について減法ができることを理解し、減法の記号と等号を用いた式が十分にわかる。	後 期	たしざん ・1位数と1位数の加法で、繰り上がりのある場合の計算が正しくできる。 かたちあそび ・立体の形や面の特徴に着目して、図形を分かりやすく、分類することができる。 ひきざん ・(十何)ー(1位数)の減法で、繰り下がりのある計算が速く正確にできる。 どちらが ひろい ・身の回りにあるものの面積に関心を持ち、直接比較やますの数で比べることができる。
	10よりおおきい かず ・10より大きく60未満の物の数を数えたり、数字を用いて表したりすることが正確にできる。 なんじ なんじはん ・何時、何時半の時刻の読み方ができる。 はなは なんこ さいたかな ・ものの個数を条件や観点に応じて数えて、整理して表すことができる。 どちらが ながい ・身の回りにあるものの長さに関心を持ち、比較の方法を工夫することができる。		20よりおおきい かず ・100までの数を工夫して、正しく数え、正確に読んだり書いたりできる。 なんじなんぶん ・とけいをみて、時刻を読みとることができる。 ずを つかかって かんがえよう ・図を用いて、順序数の加減計算の仕方を考え、説明することができる。 かたちづくり ・立体の形や面の特徴に注目して、図形を分かりやすく分類することができる。 ばしよを あらわそう ・数と上下や左右の言葉を組み合わせて用いて、位置を正確に表すことができる。
	3つの かずの けいさん ・3つの数の加法の式の意味を理解し、その計算をすることができる。 どちらが おおい ・身の回りにあるもののかさに関心を持ち、比べることができる。		けいさんピラミッド ・計算ピラミッドに関心を持ち、自分でいろいろな問題をつくらうとすることができる。 1ねんのふくしゅう ・既習内容を活用して、問題を解くことができる。

算数科の評価

・算数科では4つの観点で評価します。

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
数量や図形に親しみを持ち、それらについて様々な経験をもととする。	算数的活動を通して、数理的な処理に親しむ。	整数の計算が確実にでき、それを用いるとともに、物の大きさを比較したり、身近な立体を観察したり構成したりする。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方及び整数の計算の意味を理解し、量や図形についての理解の基礎となる経験を重ねている。

・次のような方法で見てください。

発言内容 ノートのまとめ方 プリント テスト 学習態度 ドリル 取り組む様子 計算練習 練習問題 作品作り カード作り

おうちの方へ

ブロックなどの半具体物を使って、数の概念を育て理解を図ります。自分で考え発表する場やゲーム的な活動を取り入れ、「算数は楽しいね。」と言える授業にします。
 繰り上がり・繰り下がりのある計算はすべての計算のもとなので完全習得を図ります。算数の宿題はほぼ毎日出します。学習の定着を図るとともに家庭でも机に向かって学習する習慣を身につけさせるためです。ご家庭の協力をお願いします。